大津市勤労福祉センター講座

歴史講座

白洲正子 近江のかくれ里

開催日時

12/16、23、1/6、13（水曜日）

13：30～15：30（15：00～15：30は質疑応答）

今なお、多くの人を惹きつける白洲正子の作品。なかでも『かくれ里』には近江が七編も紹介されています。白洲正子を惹きつけた『かくれ里』の世界を作品と現地の様子を豊富な画像を用い、講師の感性を織り交ぜ解説します。現代の日本人が失いかけている大切なものを、近江の『かくれ里』が語りかけてくれるはずです。

◆第１回　１２月１６日(水)・・・「油日の古面・油日から櫟野へ　山への祈りとその造形」
『かくれ里』冒頭を飾るのが油日の里の物語です。油日の里で白洲正子が感じ取った霊峰油日岳に宿る神仏への祈りと、その造形の世界について、油日神社、櫟野寺に残された数々の文化遺産を通して解説します。

◆第２回　１２月２３日(水)・・・「石を訪ねて・石の寺　石に宿るもの、そして表出する美」
白洲正子は「石の寺」・「石を訪ねて」の２編で近江の石造物の魅力について紹介し「私は近江で初めて石の美しさを知った」と語ります。白洲正子の作品を通して近江の石の文化の魅力を多くの作品を通して解説します。

◆第３回　１月６日(水)・・・「湖北菅浦　湖北に展開する美と暮らし」
白洲正子は、湖北の地を「道行」しながら、湖北に多数継承された十一面観音の世界、そして湖と共に生きた菅浦の暮らしの魅力を語ります。琵琶湖に展開する祈りと暮らしに諸相について解説します。

◆第４回　１月１３日(水)・・・「葛川明王院　シコブチ信仰と千日回峰行」
比叡山千日回峰行は、葛川明王院での修行から始まりました。白洲正子は比良の山の神と修行僧との交流の中に千日回峰行の持つ意味を見出そうとします。そしてその仲立ちをするのが、比良山中に潜む謎の神「シコブチ」。比良山系の神秘の世界を解説します。

開催場所：大津市勤労福祉センター　５階　大ホール
講　　師：元滋賀県立安土城考古博物館副館長
　　NPO 法人歴史資源開発機構 主任研究員 大沼　芳幸　氏
受 講 料：４回分　３,０００円（教材費含む）※開催初日に徴収させていただきます。
定　　員：先着順３５名
持 ち 物：筆記用具
申込期間：１１月１６日（月）AM8：40～１２月１５日（火）
申込方法：電話・FAX・互助会ホームページ（詳細は裏面へ）

※受付初日の窓口でのお申し込みは、ご遠慮いただきますようお願いいたします。

講師紹介

元滋賀県立安土城考古博物館副館長
NPO 法人歴史資源開発機構　主任研究員　大沼　芳幸　氏

びわ湖をめぐる文化史を考古・歴史・美術・民俗・漁業・環境等幅広い視点から研究成果の普及活動を行っている。特に、精神文化の視点から独特の城郭論を展開するほか、白洲正子の著作を通して、琵琶湖の文化の魅力発信にも力を入れている。
近著として『白洲正子と歩く琵琶湖―江南編』、『白洲正子と歩く琵琶湖―江北編』などがある。

申込方法

１１月１６日（月）AM8：40～１２月１５日（火）までに電話（０７７-５２２-７４７４または 077-525-1105）、ＦＡＸ（０７７－５２３－３４９４）【講座名、氏名、電話番号、ＦＡＸ番号を記入】または大津市勤労者互助会ホームページ（info@otsu-gojokai.jp）の講座申込フォームよりお申し込みいただき、受講料・教材費は講座初日の１２月１６日（水）に徴収させていただきます。（先着順）
ＦＡＸ、ホームページからのお申し込みについては、申し込み後３日（土日祝祭日を除く）以内にそれぞれＦＡＸ、メールにて「受付完了」の連絡をいたします。
事務局からの返信がない場合（ホームページの場合は自動返信メールとは別途）は、受付が完了しておりませんので、お手数ですが事務局までご連絡ください。

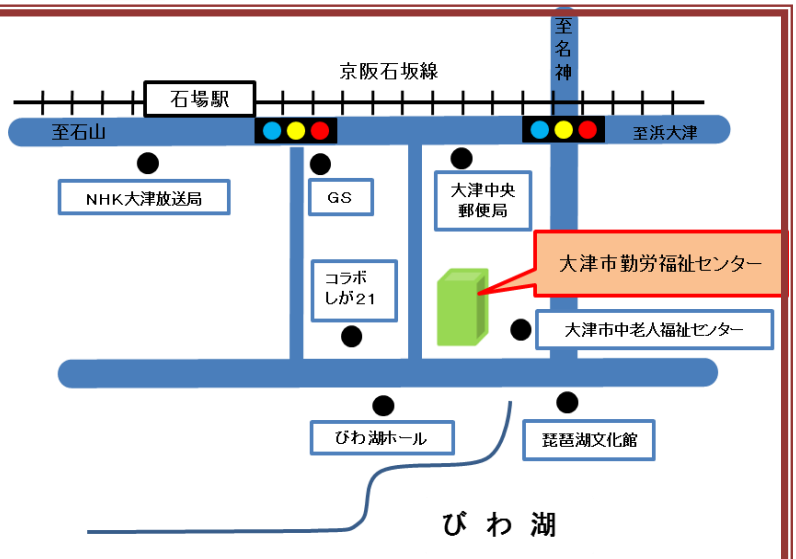
※お申し込みが少数の場合や新型コロナウイルス感染拡大予防のため自粛を決定した場合は、急遽中止することがあります。
※やむを得ずキャンセルされる場合は必ずご連絡ください。
※申込締切日以降のキャンセルについては、受講料・材料費をいただく場合があります。
※新型コロナウイルス感染症予防対策として、マスクの着用及び手指消毒の徹底をお願いいたします。

問合せ先

大津市勤労福祉センター

場　所：大津市打出浜１－６
ＴＥＬ：077-522-7474
　または 077-525-1105
ＦＡＸ：077-523-3494
開館時間
月～土曜　午前９時～午後９時まで
日 曜 日　午前９時～午後５時まで
休館日　毎月第３日曜日、祝祭日、年末年始（12/29～1/3）

地図



大津市勤労福祉センター　指定管理者（一財）大津市勤労者互助会